

役場の対人援助論

(48)

岡崎 正明

(広島市)

安全と安心のはざま

変化

区役所から児童相談所への異動となって早3年。変化したことはいろいろある。残業もストレスも格段に増えたが、もうひとつ増えたのが「安心安全」という言葉を使う頻度だ。

それはおそらく両者の機能の違いからくるもので、区役所は児相のように子どもを保護したり施設に入れる権限は無く、保護者や子どもの地域生活を支える制度利用の案内や、そのお手伝いといった、原則「支援」をするところなのに対し、現代の児相は保護者や子どもの支援ももちろん行うが、虐待などの子どもの権利侵害に対しては、強制力を持って家庭に「介入」し、調査や保護、指導や入所措置などをする機関だからであろう。

だから当然のことだが、家族に対して子どもの権利侵害や安心や安全が脅かされているかいないか、脅かされているとすれば、どれくらいかといった話をしていく機会が増えて、

「今のままではご自宅が子どもさんにとって安心安全ではないと今は判断しています」

「家族みんなの安心安全が保たれるために、どうすればいいか一緒に考えていきましょう」
みたいな発言をすることが多くなったというわけだ。

「安心安全」という言葉は、世間でもよく聞いて耳馴染みが良いし、そんなに難しい言葉ではないのでいろいろな保護者や子どもにも通じやすい（気がする）。それに、

「お宅は虐待がひどいから…」

「本人が怯えていますから…」

なんて言い方より、

「安心安全の面で心配があるので」

の方がこちらでも断然言いやすいし、少なくとも相手が感情的に反応することが少ない（気がする）。おかげでやたらと便利に「安心安全」を使っている日々である。

しかし、ある時ふと思った。

「安心」と「安全」って並べて使っているが、何が違うんだ？

似てる気はするが、ちょっと意味合いが違う気がする。よく考えると、それぞれどんな意味を持った言葉なんだろう。ちゃんと私は理解できているのだろうか。

そこで辞書を引いてみる。今はオンライン上でも調べられるからとても便利だ。そういえば昔は「電子辞書」ってなものがあり、大人のビジネスアイテムとして、お家の便利グッズとして、たまにテレビショッピングなんかでも扱われていたが、そういえば気づかないうちにめっきり見なくなった。生成AIまで出てきた時代に、もう電子辞書の居場所は無いのだろうか…。

脱線はともかく、辞書によると「安心」は

「気がかりなことがなく、心が落ち着き安んじること」

みたいな説明が書いてあり、「安全」のほうは、

「危険のないこと。平穏無事なこと」

と書いてあった。

なるほど。まったく異論はない。さすが辞書の説明は正しい。

そこで気づくのは、安心というのは「心」という字が使われているように、本人の気持ちや主観に寄った言葉であり、逆に安全は、気持ちというより客観的に危なくないという「事実」に寄った言葉だと思われることだ。

確かに工事現場には「安全第一」とは書いてあっても「安心第一」とは書いてない。工事現場のように危険を伴う場所では、気持ちの問題より、客観的にちゃんと危なくないという、事実の方が重要なのだ。納得である。

似て非なるもの

昨年の11月、当対人援助学会の広島大会で印象に残る言葉に出会った。

発言者は白鳳短期大学の西川友理さん。学会の理事で、対人援助学マガジン執筆者仲間である。彼女は担当した企画「保育関係者による当事者研究」の中で、こんなことを述べたのだ（たぶん私の記憶では）。

『安心』と『安全』はいつもイコールとは限らないんで。例えば危険な冒険で『安全』じゃなくても、仲間と一緒になら『安心』して楽しめるってこと、ありますよね」

確かに言われてみればそうである。スリル満点のジェットコースターや、濁流を下るラフティングなど、合理的に安全面だけ考えれば、なにもそんな危険なところに参加する必要はないことでも、私たちは作った人や案内人への信頼や、仲間と一緒にいることで勇気づけられ、安心して楽しむということがある（私は絶対乗らないけど）。少なくともそういう選択をする人がいるのは事実である。

そう考えると、客観的に合理的に考えたら不合理で「安全」じゃないことも、私たちは趣味嗜好や人間関係やこだわりやその他いろんな理由から、つい主観的な「安心」とか心地よさで選んでしまう。そんなことが往々にしてある気がする。

たとえば「お酒を飲むこと」や「ギャンブルを楽しむこと」「タバコを吸うこと」など、健康面や合理性でいえば、あまり推奨されない、危険やリスクが伴うとされるこうした行為も、安全性だけでいえばしなかったり、少ない方がいいのだろうが、人間というのは「分かっちゃいるけど止められない」という生き物なわけで、快感やストレス発散などの主観的な欲求で、つい繰り返してしまうことがある。これもいうなれば、心の安定や充足を求めるとい

意味では、やってる本人は「安心」を求めているのと近いのかもしれない。

「私は酒もタバコもギャンブルもしないし…」という人だって、スマホゲームをついし過ぎてしまったり、先月は買物しすぎちゃったとか、健康のためにはダイエットしたほうがいいのに…とか。客観的科学的に正しいことを、楽しみとかやすらぎとかの主観的思いで、ついおざなりにしてしまうことって、誰にでもあるのではないだろうか。

「それと虐待やDVを一緒にするのは違うんじゃない？」

「虐待やDVには安全はもちろん、安心もないでしょうよ」

確かにそうなのだが、事はそんなに白黒はっきりできるほど単純でなく。もちろん虐待やDVは不法行為で権利侵害で、安全も安心も脅かすものだが、相手との関係性や生活環境というものは様々なわけで。DVのハネムーン期に代表されるように、一時の安心や幸福感を感じる瞬間があったり、親から虐待されていても、他の家族との関係にはやすらぎや喜びの瞬間があったり、学校や地域に救いの場があったり。そんな中で、虐待やDVの解決を図ろうとすると、ときに逃避や保護といった、今の環境や人との関わりをゴッソリ変えてしまう手法が取られることがあって。もちろんそれは必要なことなのだが、当然そこには強い葛藤が生じることがあるのだ。

そう思うと「安心安全のために…」と、一括りで話していくことにも、よくよく注意がいるなあと改めて思ったりする。もちろん子どもやパワレス状態の人など、責任や判断にサポートがいる立場の人のことを考えるということは、本人の望む短期的な安心や要望を丸飲みにして済ませる（いわゆる「自己責任論」につながる）のではなく、より長期的視野に立ったり、権利擁護や病理の視点も欠かせないのだが。ただ「本人以上に本人のためを思って何がいいのかを考える」というスタンスは、ときに支援者側の独りよがりの危うさや、矛盾を抱えるテーマに思え、悩ましい。

バランス

高齢者福祉の分野で働いていた時、ケアマネジャーのAさんからこんな話を聞いた。

Aさんが担当していたある在宅の男性高齢者は、周りから少し変わり者認定をされた人だった。別に悪い人ではないが、人付き合いも薄く、頼れる身内もない。1人で自分のこだわりを大事にずっと暮らしてきた人だったらしい。年齢を重ねて介護が必要となり、Aさんが関わることになったのだが、いろんな生活上のこだわりがあり、介護職が入るのも中々苦労が絶えなかったという。

中でも一番困ったのが排泄のこと。その男性高齢者は、大便をトイレではなく、床に新聞紙を敷いてそこにしゃがんでするのが習慣だったという。もちろんお尻は拭くし、衛生的にも問題ない形で処理するらしいのだが、足腰が弱ってきて失敗することもしばしば、介護に入るヘルパーからの要望もあって、なんとかAさんは男性高齢者を説得し、新聞紙に大便をすることを止めてもらったのだそう。しかしその頃から男性高齢者は急激に活力を失い、それまで一度も入院したことが無かった人があったという間に入院して寝たきりとなり、亡くなられたとのことだった。

Aさんはその話をしながら私に、

「あの時あの排泄方法を止めさせてなかったら…と、いつも思うんですよ。もうちょっと話し合いをしっかりとって、いい方法を探れなかったかなあって…」

と語ってくれたのだった。

もちろんその男性高齢者が入院したことが、排泄方法の変更と直接関係があるのかは分からない。

そもそも床に新聞紙を敷いて排泄するという方法のメリットや合理性が、私たちには分からないし、なぜそんなことを男性高齢者が続けていたのか。その目的も思いもなかなか理解が難しい。

しかし、排泄とは人の尊厳にかかわる重要な要素である。世間的にも「下の世話にはなりたくない」「最後まで自力でトイレに行きたい」という声はよく聞くことだ。その男性高齢者にとっては、その排泄方法はおそらく何十年と続けてきた生活スタイルであり、安心感と安定を生活にもたらすものだったのだろう。他人から見れば全く理解不能だけれども。

だが、おそらく私たちにも、そこまで変わったこだわりではなくとも、それぞれのルーティンやクセや習慣・やり方があるのではないだろうか。決して合理的でも効率的でもないけれど、もっといい方法があるのかもしれないけれど、私はこのやり方が一番落ち着く。しっくりくる。そんなものがたくさん集まったのが、個々人の生活というものだと思う。

「安全と安心」の話に当てはめれば、トイレでちゃんと排泄するのが客観性と科学的根拠のある「安全」であり、個人のこだわりで新聞紙を敷いて大便をするのが、その人にとっての「安心」である。どちらをどれだけ大事にし、どのへんで折り合いをつけるのか。難しいところだ。

対人援助において、安全の視点はもちろん大事だが、安全のみの視点では息が詰まる。究極隕石が落ちてくるのを心配して、地下にこもることになりかねない。だがそれでは「いきがい」や「QOL」の視点からはアウトだろう。逆にストレスから健康を損なう心配もある。かといって、主観的な安心だけの視点では、ときに本人にとって良くないことになりかねない。このあたりが、不合理で矛盾した存在である「人間」を相手にすることの宿命的課題だと思う。

おまけ

そんなことを考えながら「安心安全」についてグルグルと考えていたら、ふと、

（そういえば『安心安全』とは言うけど、『安全安心』とはうちの業界ではあんまり言わない気がする。でも世の中の的には『安全安心』も聞くよな…）

と思った。

それで今調べてみたら、「安心安全」で検索すると約660万件のヒット。「安全安心」で検索すると約418万件のヒットで、わずかだが「安心安全」の順番が優勢だった。フムフム。やっぱりそっちの順番の方が主流な気がする。

次に「『安全安心』と『安心安全』の違い」で検索すると、

「一般的にはどちらの表現も使われるが、自動車や交通関係の業界では『安全安心』が多く見られる」との回答が出てきた。

なるほど。対人援助業界と交通関係の業界では、やはり客観性と主観の優先度が違う。その辺りからくる順番の違いなのかもしれない。面白い。